
JETBLACK-Footsteps.Coming.-

ハンシャ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

J E T B L A C K - F o o t s t e p s ・ C o m i n g ・

【Nコード】

N 1 3 6 4 Z

【作者名】

ハンシャ

【あらすじ】

J E T B L A C K - P ・ D ・ G - に続くJ E T B L A C K第二部的な体の小説です

人物（前書き）

人物紹介です

随時更新していきます

人物

S・AⅡ 阿部左宇 水路 11位

本体年齢20歳

欺体年齢17歳

身長体重共に存在せず

零化3回

ナイト4回

BUITe0回

咎人討伐数46人

同胞討伐数13人

魂補充1016

特性

『エラヒストス タナトス最奥の地下水路』

左宇の精神は地下水路の様に入り組んでいる。対象をそこに取り込み、心の中の痛手の分相手を殺す。また、相手が何かしらの負い目を感じている時その負い目×100回相手を殺す。ただ殺す度左宇の精神も摩耗していく。取り込まれた対象は基本的に召喚体や呪文を使えないが、それなりに強い奴は使える。空間転移特性の様に使うことも出来、痛手と負い目で殺せなかった分も殺せるが、新規の相手なら先ず痛手と負い目で殺さなければならない。その過程を飛ばしいきなりただ殺すのは不可能。だったが日々とは是即ち成長促進の為の賜物。進化し、殆ど庭の様に自由に使えるようになった。これまた有りがちしかし主人公補正とは言わせない主人公かどうか危ういし。水路の広さはS・A自身も把握出来ておらず、もしかしたら何か住んでるかも。恐ろしい。

“転移動作”水路内を自由に移動できる技？みたいなモノ。これ自身は特性というわけではなく『最奥の地下水路』のオマケ機能みた

いなモノでもある。

“突然死” 水路はS・Aの精神構造であるのでなんでも自由に出現させられる。死もまた同様として、いきなり空間から剣や刀が現れて対象に突き刺さり殺す。ただこれは防ぐことも可能。最早何を言っているのか分からない。

“空間歪曲” 『最奥の地下水路』の構造を変えたり出来る。

使用呪文

ナイト

“千刃の谷”

“ソードフィッシュ”

“Tankappe”

“BLOODY-MARY”

“スレイ・ライ・サントエク”

“ベルンズ・ニー・グリング” 146 LV4

“ストップ”

“ワキュレール・ヒルデ・リュブ”

“ダインスレイヴ”

OZに大城妙の護衛役としてワレラに誘われた。

犯した罪は『親殺し』。

狩ったワレラ不明、生きる動機、また希望共に無しではあったが、罪の中に他人が認める“正義”があったのでワレラに成れた。

T・O・大城妙 ハンシャ 5位

本体年齢17歳

欺体年齢17歳

身長体重共に存在せず

零化45回

ナイト36回

B U I T e 1 0 回

咎人討伐数955人

同胞討伐数7人

魂補充100

特性

『レフレクシオ反射>ハンシヤ<の国テッラ』

『強制解除』の時に強制的に使用させられる特性。相手の使う呪文をそのまま反射させる。相手は唱えた呪文が起動しない。

『強制解除』

一週間の内の一日だけ強制的に零になる。

使用呪文

ナイト

“千刃の谷”

“ソードフィッシュ”

“スレイ・ライ・サントエク”

“インス・レッド・インスデーノウ”

“サブゴッド・オブ・リメイション”

“B L O O D Y - M A R Y ”

“ストップ”

“煉獄プルガトリウム”

“ドリスイト・バリンク・トロック”

“ゲール・ジフ・リートシズク” 23 L V 3

“ベルンズ・ニー・グリング” 17 L V 2

“T a r n k a p p e ”

“ワキュレール・ヒルデ・リュブン” 18 L V 3

“ダインスレイヴ” 25 L V 2
“ルジェロ” 5 L V 1
“デュランダル” 127 L V 4
B U I T e
“ラムテイル・ヴィーグ”
“イステーク・ネスダク”
“スロトル・オロスケル・ハウンドヘルベ” 5 L V 1
“ボスディア・ラ・グロアディ” 908 L V 14
“ブレパス・ア・イカト”
“バルド・トエ・ドル”
“フィンブルヴェトルの冬”

犯した罪は『見殺し』。

といっても本人が罪だと見ているだけで他人からすればそれは罪ではないので、贖罪する必要はないと思われる。

が、本人が罪だと考える以上それは罪であり、彼女は咎人になった。狩ったのは0Z。

その後『犯罪者が寄り付く体』を利用し咎人を殺しまくり、ついでに寄ってきた咎人寄りのワレラを7人殺す。

7人目のE・NE、更に1〜3人目までは現世で狩ったが、4、5、6人目は“煉獄ブルガトリウム”を利用し『曲解の輪廻』の環から外した。

ワレラに成ったのは生きる動機また希望があったから。

現世の何処かにある“グリモア・グリモワール”を得るとというのが動機。

そこにある魔法を使うことが生きる希望。

といってもこれは後付けの動機と希望で、ワレラに成った時の本来の動機とは若干異なる。

しかし最終的にそれを手に入れることが本来の動機と直結すること
は言ってもない。

J・A5Ⅱ 古賀奈保

12位

本体年齢10歳

欺体年齢16歳

身長体重共に存在せず

零化0回

ナイト0回

BUITe0回

咎人討伐数0人

同胞討伐数0人

魂補充0

特性

『アスビタデオス
守護神』

戦う相手をコピーする。ただしコピーされた守護神は対象を5割強化している。

『リスイ
忘却』

特定の記憶を排除させる特性。

『サアーダ
植付』

『忘却』で消し去った記憶の代わりに違う記憶を植え付ける。

使用呪文

不明

犯した罪無し。

死因は過剰暴力。

ワレラになれたのはOZの『同情した振り』と『制裁』を目的に持っていたから。

彼女自身はワレラだが、ナイトでもBUITeでもない。

E・NEⅡシネ

本体年齢不明

欺体年齢25歳

身長体重共に存在せず

零化3回

ナイト4回

BUITe0回

咎人討伐数31人

同胞討伐数18人

魂補充16

使用呪文

ナイト

“千刃の谷”

“ソードフィッシュ”

“BLOODY-MARY”

“ストップ”

“ドリスイト・バリンク・トロック”

“グール・ジフ・リートシズク”

“ベルンズ・ニー・グリング”

“Tarnkappe”

“ワキュレール・ヒルデ・リュブン”

BUITeを嫌うナイトの一人。

犯した罪は『裏切り』。

殺した同胞18人中18人がBUITeという徹底した嫌BUITe。

騎士の名誉だとか誇りだとか言っているが結局それらも塵の積もつ

た下らない思想ではある。

D・W / - II 轍醍醐 深部 ○ 2位

本体年齢 853歳

欺体年齢 18歳

身長体重共に存在せず

零化 1192回

ナイト 1193回

B U I T e 0回

咎人討伐数 11926人

同胞討伐数 11895人

魂補充 13085

特性

『カデユタ 深部に至るは全てを知った』プロフォンダ

あらゆるモノの深部に入り込む。空間、時間、次元、人の真意。対象がなんであれ自らを深みに陥れる。

使用呪文

ナイト

“ 千刃の谷 ”

“ 八龍 ”

“ 雷上動 ” 15000 Lv20

“ 兵破 ” 15000 Lv20

“ 水破 ” 15000 Lv20

“ 天の羽々矢 ” 15000 Lv20

“ 祢々切丸 ” 15000 Lv20

“ 村雨 ” 15000 Lv20

1159年生まれ。

犯した罪は『配下殺し』。

配下殺しと言つても自分が殺した訳ではなく、自らの力及ばずで殺してしまつた。

他人からすればそれは罪でもなんでもなく、配下からすれば忠義立てした主君に最後まで義を持って仕えることができたのでむしろ幸せではある。

が、本人が罪だと見ているのでそれは罪であり、自害に依つてワレラと成つた。

P4・D1〃太宰・ペルソナ 天才 6位

本体年齢99歳

欺体年齢16歳

身長体重ともに存在せず

零化5000回

ナイト46回

BUITe4955回

咎人討伐数50000人

同胞討伐数0人

魂補充4879

特性

ブックレット

『古書』

全ての事象、この世の理は遙か太古に記された書に全て収められている。『古書』はそれと呼び出し、相手の特性や魂補充、召喚体の細かいレベルを読み取る。

使用呪文

ナイト

“ 千刃の谷 ”
 “ ソードフィッシュ ”
 “ スレイ・ライ・サントエク ”
 “ ストップ ”
 “ インス・レド・インスデーノウ ”
 “ グール・ジフ・リートシズク ” 273 L V 8
 “ ベルンズ・ニー・グリング ”
 “ T a r n k a p p e ”
 “ サブゴッド・オブ・リメイション ”
 “ オウブ・ゼス・エピック ”
 “ ドリスイト・バリンク・トロック ”
 “ B L O O D Y - M A R Y ”
 “ ワキュレール・ヒルデ・リュブ ”
 “ ダーインスレイヴ ”
 “ 八龍 ”
 “ 雷上動 ”
 “ 兵破 ”
 “ 水破 ”
 “ 天の羽々矢 ”
 “ 赤い石 ”
 “ 祢々切丸 ”
 “ 煉獄プルガトリウム ”
 “ ルジェロ ”
 “ 7つの大罪 ”
 “ デュランダル ”
 B U I T e
 “ ラムテイル・ヴィーグ ”
 “ イステーク・ネスダク ”
 “ スロトル・オロスケル・ハウンドヘルベ ” 450 L V 10
 “ ボスディア・ラ・グロアディ ”

“ブレパス・ア・イカト”
 “バルド・トエ・ドル”
 “痛過儀礼”
 “鬼人面相”
 “ストツプ”
 “蝕虫毒”
 “蜘蛛縄”
 “A z i D h a k a” 4 0 0 L v 1 0
 “A b a d d o n” 4 0 0 L v 1 0
 “ワイルド・ハント”
 “フィンブルヴェトルの冬”
 “サプナク・ソロモン” 4 0 0 L v 1 0
 “ツマグ・オグンジェニ・ヴク” 4 0 0 L v 1 0
 “エクシュキュ” 4 0 0 L v 1 0
 “フラガラツハ” 1 5 0 0 0 L v 2 0
 “エクスタルタロ”
 “ベレト・ソロモン” 1 4 0 0 0 L v 1 8
 “シャツクス・ソロモン” 6 5 8 7 L v 1 8
 “キマリス・ソロモン” 1 5 0 7 4 L v 1 9

犯した罪は『悪魔契約』。

ワレラの呪文の中には悪魔召喚のモノもあるがそれはそれ、人間の内に悪魔契約など大罪でしかない。

ある意味での咎人であるワレラには許される。

そしてそれが、彼がワレラになった理由でもある。

明確な動機は全知全能になること。

どんな詰まらない些細なことも全てを知りたい。

E 2・D 1〃 太宰秀一 秀才 25位

本体年齢 99歳

欺体年齢 16歳

身長体重共に存在せず

零化 0回

ナイト 0回

B U I T e 1回

咎人討伐数 0人

同胞討伐数 5000人

魂補充 4974

特性

『^{エモ二}支えの空^{ウラノス}』

彼は常にそれだけを求める。前に立つのではなく、隣に肩を並べるのではなく、背後に控えるのではない。ただ支えることで自らを支えるに値する者を強化する。

使用呪文

B U I T e

“ラムテイル・ヴィーグ”

“イステーク・ネスダク”

“スロトル・オロスケル・ハウンドヘルベ” 480 L V 10

“ボスディア・ラ・グロアディ” 15000 L V 20

“ブレパス・ア・イカト”

“バルド・トエ・ドル”

“痛過儀礼”

“鬼人面相”

“ストップ”

“蝕虫毒”

“蜘蛛縄”

“A z i D h a k a” 580 L V 10

“ A b a d d o n ” 4 9 8 L v 1 0
 “ ワイルド・ハント ”
 “ フィンブルヴェトルの冬 ”
 “ サブナク・ソロモン ” 5 9 0 L v 1 0
 “ ツマグ・オグンジェニ・ヴク ” 4 8 0 L v 1 0
 “ エクシュキュ ” 5 0 0 L v 1 0

犯した罪は『兄弟殺し』と『自殺』。

悪魔契約に失敗したペルソナを助けるため自殺。

自殺による罪で咎人になり、それをワレラの誰かが浄化し、兄を助けるという動機でワレラに成った。

そして『悪魔契約』を行った兄を咎人として殺し、ペルソナもまた全知全能になるという動機の下ワレラに成った。

V e . I E ユール 不快 × 1 位

本体年齢不明

欺体年齢 2 0 歳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充無数

特性

タクスイ スパオ アフトクラトリア

『確率破綻の国』

二十面体の賽子の召喚体を召喚する。

通常の六面体賽子は全ての面が出る確率一定だが、『確率破綻の国』の場合 1 / 2 0 の確率ではなく、振る度に確率変動を起こす。

初期確率は7、13、20が0。

4、15、18が1/18。

9が9/18。

11が8/18。

6が6/18。

2、3、5、10、16、17が4/18。

1、8、12、14、19が2/18である。

使用呪文

ナイト

“千刃の谷”

BUI Te

“イステーク・ネスダク”

史上最悪のワレラ。

犯した罪は間接的な『大量殺戮』。

十殺せば殺人者百殺せば殺人鬼百万殺せば英雄を地で行った男。

この世に『曲解した輪廻』を齎している『全てを束縛する国』を保っている存在でもある。

そのためOZやT・O・は彼を殺すことを善しとしない。

E。XⅡ出宮真 真理 x 13位

年齢17歳

身長165、2cm

体重54、5kg

零化0回

ナイト0回

BUI Te 0回

咎人討伐数0人

同胞討伐数0人

魂補充0

特性

『^{ハコミワ}真理の国』

彷徨う彼方で出宮が使用した『“Scenic Projection”風景投影』が特性として顕現した形。

使用呪文

ナイト

見たもの全て

BUI Te

見たもの全て

『彷徨う彼方』のラスボス。

『戦う理由』にも出ている。

どこにでも出てくる困ったちゃん。

彼のアダム『Dust』により、見た呪文聞いた呪文、特性全てを使用可能にする。

A・A0〃吾桑 快感

21位

本体年齢27歳

欺体年齢20歳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

BUI Te不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

エビスミニア
『快樂主義者の空』 ウラノス

この世で誰かが感じた快樂全てを集め溜めておき、対象に必要な分だけぶつける。

対象の快樂の蓋が開いた時、快感に溺れ溺死する。

使用呪文

不明

V e . I E に叩き込まれた不快に『快樂主義者の空』全てが飲まれ死んでいった。

犯した罪は『違法薬剤投与』。

d I n / 〃 ルチアーノ 絶望 × 20 位

本体年齢35歳

欺体年齢35歳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

アベルヒスィア タラサ
『望みを絶つ海』

先に99の希望を与え、1の絶望を与えることにより100の絶望に変える。

使用呪文

ナイト

“ 千刃の谷 ”

“ ソードフィッシュ ”

“ スレイ・ライ・サントエク ”

“ ストップ ”

“ インス・レド・インスデーノウ ”

“ グール・ジフ・リートシズク ”

“ ベルンズ・ニー・グリング ”

“ T a r n k a p p e ”

B U I T e

“ ラムテイル・ヴィーグ ”

“ イステーク・ネスダク ”

“ ボスディア・ラ・グロアディ ”

“ ブレパス・ア・イカト ”

犯した罪は『拷問殺人』。

崖に掴まる友人を殺した事が『望みを絶つ海』を开花させた様な気がする。

伍堂の女 愛 される 30位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充 3747

特性

トワット アモーレ
『他者の愛』

死んだ魂を束縛し抛り所に連れていくことでワレラとする。

最大100人。

ワレラにするに際し伍堂の女の魂が1消費されるが、E・0としワレラになった者が狩った魂は伍堂の女のモノになる。更にE・0は、伍堂の女が存命ならば死んだとして魂の消費なく循環する。

使用呪文

不明

犯した罪は『旦那殺し』。

D・G0Ⅱ 裁断介添人 助力 ○ 26位

本体年齢不明

欺体年齢 65歳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

BUITe不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

ウェールス ベッルス
『真偽は我の前に明快』

ワレラの特特殊技能である『犯罪の透視』で見た罪を、言葉にするこ

とにより人間にも理解、納得させる特性。

『ユーディキウム
裁断介添人』

復讐を遂げたいと思っっている人間に一時的にワレラとしての能力、
『朧の見掛け』や『犯罪の透視』、また“千刃の谷”と“ボスディ
ア・ラ・グロアディ”を詠唱拒否で使用可能にする。これにより人
間が復讐を遂げた場合D・G0に魂補充が10追加され、咎人討伐
数は100増えていく。

使用呪文

不明

科された罪は『殺人』。

自らは罪と認めず、擦り付けられた罪でワレラになった唯一の人間。
本来ならば自らの罪で、自らが罪と信じなければワレラにはなれな
いが、0Zの計らいでワレラになった。

本当は、ワレラになり自分に罪を擦り付けた奴を殺すはずだったの
だが、ワレラとして現世に戻ってきた時、すでにそいつは死んでい
た。

復讐を遂げられなかったD・G0は、顕現した特性により他人の復
讐を助けることにより自らの欲を満たしていた。

DIEIIダイオレス 殺人鬼 × 8位

本体年齢154歳

欺体年齢15歳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

特性

『ヤクトル ザイール バラド殺意の咆哮響く国』

空間転移特性。偽装空間とも言える。仮想生活圏で国。そこには数十万の人間が住んでおり、この国に送り込まれた対象に全員の殺意が集中する。そしてあらゆる手段で対象を殺しに掛かる。無論D I E も殺しに来る。この国の住人は全てD I E が以前殺した人達。

使用呪文

存在し得る呪文全て

ワレラになる前、つまり生きていた頃一万人以上を殺した究極なる殺人鬼。“者”ではなく“鬼”。二つ名の通り、綺麗な殺しではなく数の殺しを好む。10歳の頃同級を殺してから一日も欠かさず誰かを殺している辺り、実はV e . I E 以上に不快感を感じさせ、この世の狂人全てを集めた狂気より狂っているのかもしれない。犯した罪は『大量殺人』

I I I I サナイ 無限

15位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『インフィニタカケル テッラ無限の廻廊続く国』

詳細不明

使用呪文

不明

未確認。

SION「シオン 爆破 ○ 14位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『フォティア スタッフティ火となり灰となれ』

人以外、全てを爆破させられる。基本的に見た物は爆破が着火。触れた物は時間差爆破、若しくは即時灰化出来る。

使用呪文

ナイト

“千刃の谷”

“ソードフィッシュ”

“グール・ジフ・リートシズク”

“ベルンズ・ニー・グリング”

“サブゴッド・オブ・リメイション”

B U I T e

“イステーク・ネスダク”

“ボスディア・ラ・グロアディ”

犯した罪は『世界の主要建築物連続爆破』。といってもそれらの建築物は世界にとって不要、癌のような存在であった。人の欲と業により構成されたそれを爆破し続けたのはむしろ正義だということでワレラになれた。

C A b T 〃 兜 暗殺者 x 18位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『スノタディ ウラノス
暗闇の空』

使用呪文
不明

N i n g 中田 溺死 17位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『凍える寒さの水面に落ちろ』
バゴノ リムニ フトスイ

空間転移特性。偽装空間とも言える。半径5kmの湖の上に対象を連れていく。

使用呪文
不明

D e e t Ⅱ デイト 殺人者 × 9位

本体年齢123歳

欺体年齢不詳

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『ソヴァロ インテルフィサツラ
繊細なる殺意の国』

空間転移特性。偽装空間とも言える。仮想生活圏で国。この国に入国した者は片腕が吹き飛んでいようが、片脚が切断されていようが、片眼が刳り貫かれていようが、どんな“外傷”を負っていようがたちまち回復する。この特性を使うには条件がある。半径1km以内に外傷を負った者がいること。D e e t 自体もこの空間に行けば外傷は全て治る。ただD e e t 以外に怪我人がいなければ使えない。そして『繊細なる殺意の国』の最大の特徴は、一度入るとD e e t を殺そうがなんだろうが一時間は出られないことだ。そしてワレラは、T・O・の『強制解除』の様に正にも負にもなれず零のままその国を彷徨うことになる。

使用呪文

不明

生前、“治す”ことこそこの世で至高の行いであると信じ、医者になり多くの人を無償で救ってきた。ワレラとなった今も諸外国の貧困街や貧しい村に行き無償で治療などを行っている。が、根本的な部分が生前と死後では違っていた。生前は純粹に治すこと、修復が好きだと思っていた。事実治すことだけに生涯を費やした。そして生きていた最後の日によやく気づいた。治すこと自体が好きなのではない。それは過程に過ぎず、重要なことはその後に待っているのだということに。『・・・』なら完全な状態でなければ意味はな

い。そして彼は『解体殺人“仮”』を犯し、ワレラに依り浄化された。殺した人数に対し救済した人数が圧倒的多数であったためワレラになった。

THUN「サン 雷 16位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

BUI「Te不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性
フロエレスフゲラヴノス
『原点の雷』

使用呪文

不明

未確認。

Xana「佐奈 桃源郷 0位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『桃源郷』
パラディソス

空間転移特性。偽装空間とも言える。この世の楽園『桃源郷』に行く。ここにはなにもなく、なにかもを召喚出来る。痛みも苦しみもなく、X a n aはワレラになってからずっとこの空間に引きこもっている。

使用呪文

不明

引きこもり。

D・G O / 〃 裁断請負人

28位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性
『ディカステイリオ
裁断請負人』

使用呪文

D I E / K 〓 殺人請負人 × 27位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性
『スコトノバリヤツオス
殺人請負人』

使用呪文

E d i a 〓 自殺介添人 × 29位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『自殺介添人』

使用呪文

d O S I Ⅱ デイオス 殲滅 ○ 1 0 位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0

特性

アヘルヒネムネリウム
『殲滅帝国』

デリオス自身が現世に50体出現する。

使用呪文

不明

ある国の元元帥。犯した罪は、恐らくV e・I Eより酷い『国滅ぼし』。ある国に反発していたとある小国を、国ごと文字通り“滅ぼした”。ただ、それはある国にとっても世界にとっても、プラスになることはあれマイナスにはならない事象であった。しかし、一国を、そして大量の人間を殺したことにかなりのバツシングを受け、全ての責任を負いディオスは自害した。そして死後、その行為に正義があり、敬意を表されたためワレラになった。殺しに正義を求め、一般人を殺すことはない。

E Uノ"レンゴウ 自由 19位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『^{エビロギ}選択するは^{エレフセリア}個人の自由』

使用呪文

h / S . Ⅱ 椎名サンザ 透明

0 位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

『^{ソマ}存在値は光の屈折』
透明になれる。

使用呪文

不明

未確認。

d O G C Ⅱ 選択者 x 7 位

本体年齢不明

欺体年齢不明

身長体重共に存在せず

零化不明

ナイト不明

B U I T e 不明

咎人討伐数不明

同胞討伐数不明

魂補充不明

特性

フアイトゥス

『神の意志などないに等しい。取捨はまた容易く』

ムーターテイオー

全ての事象に対して等しく“選択”する権利を得る。ただし“Y e s”か“N o”で答えられることに限り、直接“殺すか否か”の選択は出来ない。間接的な殺しの選択、例えば“崖から突き落とすか否か”Y e s O R N o、という選択は可能。Y e sを選択すれば対象は崖から落ち、N oを選択すれば対象は崖から落ちることはない。この選択は絶対的な死に直結しないので選択出来る。

使用呪文

ナイト 呪文（前書き）

ナイトの呪文です
更新するかも

ナイト 呪文

『星。抽象概念の具体概念。至上の感情高次の生命。火と月、エーテルの狼。頌歌の流れる地と天。滴る純金。宿り場の精霊。現状の限界からの解放。血の生命を我に手向ける。"Astral"』
火と月からなる高レベルの世界アストラルを召喚、考えようによってはそこに移動する呪文。ただの人間を連れていった場合子供に咎人を連れていけば無条件でワレラになる。此処で殺された場合人間は死なず、咎人は天国へ、ワレラは永遠にアストラル内を彷徨う。これを使った術者は魂補充を100個消費する。

『ラジエルの書。根本原理降霊の文書。心身破滅天使魔術。真実在の影。ソロモンの小さな鍵レメゲトン。パウロの書アルマデル。現世後世次元の魔術を貴方へ。"グリモア・グリモワール"』
ナイトが覚えるであろう全ての魔術が書かれた書。

グリモワールはフランス語。グリモアは英語読み表記か。15世紀末〜18世紀にかけての魔術にかかわるさまざまな文書をあらわす名称。

“突き詰めるのは正義の殺人
目には目を、歯には歯を、殺しには殺しを
殺されたいからお前は殺す
罰とは言わない
制裁であり死刑
我は成す我を成す
墮落の騎士の下に誓いを
私は殲滅します”

主に剣や刀などを使うクラス

Create 剣と唱えれば剣が、Create 刀と唱えれば刀が、Create 銃と唱えれば銃がそれぞれ与えられる

『来い流星群。貫き、拘束しろ。“千刃の谷”』
ナイトが最初から使える呪文。剣の雨を降らせる。

『降り注げ切り裂く風よ。“ソードフィッシュ”』
刃を風にし吹きすさばせる

『燦燦煌煌突き刺す光“スレイ・ライ・サントエクス”』
物理化した太陽光線が対象を突き刺し殺す

『一の雨、十の雪、百の風、千の死。世界に散らばる全ての狂気を貴方に。“インス・レッド・インスデノウ”』
一でこの世で最も軽い罰を、十でこの世で最も軽い痛みを、百でこの世で最も重い罰を、千で死に落とす。

『隠れ蓑。受け取る返り血。竜の魂。不死の騎士。終局にて墮落。ニーベルングの指環“グール・ジフ・リートシズク”』
ニーベルングンの歌の主人公であるジークフリートを召喚させる。

『殺す。殺す殺す殺す。正義の下に殺戮。騎士の名誉に於て殺戮。殺戮の下に殺戮。魂の蒸発。体の昇華。死の頌歌。集え裏切り指輪は点す。“ベルンズ・ニー・グリング”』

ジークフリートの剣グラムを出現させる。その名は古ノルド語で怒りを意味する。オーディンからシグムンドへ与えられ、後に息子のシグルズに受け継がれた。石や鉄も容易く切り裂いたといわれている。鍛え直された後の長さは7スパン（およそ140センチメートル）あった

『隠れ外套。クペランの騙し討ち。ニーベルンゲンの歌。霧の帽子
“T a r n k a p p e”（タルンカッペ）』
ジークフリートが手に入れたかくれマントを召喚する呪文。姿を消
すことができる。

『輝け魂。昇華に継ぐ昇華。神聖の下に更なる誓いを。“サブゴッ
ド・オブ・リメイション”』
ナイトの力を倍増させる。普段より速く、普段より滑らかに動き、
華麗に、鋭く対象を殺す。

『高潔なる血。純正なる血。無垢なる血。精巧なる体。磊落なる心。
大悟なる志。呼び起こせ古代太古最古の魂。“オウブ・ゼス・エピ
ック”』

ゼウスの剣であるケルキオンを召喚させる。雷を司る剣で、一振り
で街を、二振りで国を滅ぼそうと思えばそれが出来る。ただ他の武
器や召喚体にも言えることだが現世においてその威力を発揮するの
は難しい。真価を見たいのであれば“アストラル”や“煉獄プルガ
トリウム”などの偽装空間に行くしかない。現世で本気を出した場
合は小島が破壊できる程度。

『世界の沈黙。沈黙は金。金は権力。権力は世界。全ては黙り屈服
す。“ドリスイト・バリンク・トロック”』
対象の動きを封じる呪文。

『好みは流血。迫害の姫。反感する精神。天に召します最後の血。
“B L O O D Y - M A R Y”』
切り傷を付けることでそこから血を
噴き出させる。

『静止。制止。止まり動かない。零は無力。正は動作負は動作。』

ストップ”[㊦]

指定範囲内の動きをなくす。人間は動けないが、ワレラは動くことができる。

『戦乙女。戦死者を選ぶ女。バルハラの運び手ニールンゲンの歌。
“ワキユレル・ヒルデ・リュブン”[㊦]
ワルキューレの一人ブリュンヒルデを召喚する。

『ダーインの遺産。生き血を。魔剣の真価。熔かし吸い尽くす。
“ダーインスレイヴ”[㊦]

魔剣ダーインスレイヴを召喚させる。一度鞘から抜いてしまうと、
生き血を浴びて完全に吸うまで鞘に納まらないといわれた魔剣の代
表格。ブリュンヒルデに持たせることにより威力を発揮する。

『しろき唐綾^{からあや}をもてをどしたる大荒目^{おおあらいめ}の鎧。同じく獅子の金物打た
るままに。“八龍”[㊦]

八ツ首の龍の魂が宿った鎧。破損しても即座に修復される。

『眠りを醒ます弓。雷の鋭さ夢の臍。“雷上動”[㊦]
日本の伝説にでてくる神がかり的な弓。これにより放たれた矢は雷
の速さ、威力を誇るが、夢の様に臍げにもなる。

『兵共^{へいども}も夢の後。“兵破^{へいは}”[㊦]
日本の伝説にでてくる神がかり的な矢。一撃で100人の兵を殺す。

『明鏡止水しなやかなる生命。“水破”[㊦]
日本の伝説にでてくる神がかり的な矢。一撃放てば、周囲は水を打
ったように静まり返る。

『正体の証明。証の神。天にも昇る魂。
“天の羽々^{あまはは}矢”[㊦]

櫛玉饒速日の命が天の神の子である証拠として、長髓彦が天皇にみせた品。

『金属の母。哲学の真実。墓場凝固発酵増殖。賢者のために捧げる。
“赤い石”』

賢者の石を召喚する。召喚者の望むモノを3つだけ具現化出来る。

『山は金。波を起こし波瀾とす。断ち切る大太刀“ねね きりまる祢々切丸”』
全長3.4m、刃長2.2m、重量22.5kg。の大太刀を召喚する。山を斬れば道が出来、海を斬れば津波を起こす。

『中途の地獄。贖罪の地。ある意味での報いある意味での封印。逃げ出す術は無く許されない。“煉獄プルガトリウム”』

プルガトリウムを出現、考えようによつてはそこに移動する呪文。大罪を犯した者は地獄に、それ以外の者は天国に落とす。此処で浄化された咎人はワレラに成れず、また魂の補充があるワレラもまた輪廻の環から外される。一度に消せる魂補充は世界人口に比例する。この世界では大体70億。

『狂えるオルランド。岩縛りの女。アルノルト。オーギュスト。
“ルジェロ”』

イタリアの物語の勇士ルジェロを召喚する。岩にしばりつけられた女性を助けるため、竜の首を切り落として倒した。

『Seven sins。傲慢、嫉妬、憤怒、怠惰、強欲、暴食、
欲情。ライオン、蛇、ユニコーン、熊、狐、豚、蠍。十戒、十悪、
五逆罪。当然の報いを此処に。“7つの大罪”』

キリスト教の伝承、神学上の教義。七つの大罪は凄まじいデーモン、
悪魔の姿であらわされることもある。

プライド
傲慢
「ライオン」

エンヴィー嫉妬 「蛇」
ラース憤怒 「ユニコーン」
スロウ怠惰 「熊」
グリッド強欲 「狐」
グレート暴食 「豚」
ラスト欲情 「サソリ、蠍」

『サン・ピエールの歯。サン・パジールの血。司教サン・ドニの髪。サント・マリアの衣の布端。12勇士の魂。自傷の剣、されど壊れず眠りに就く。“デュランダル”』
 フランスのシャルルマーニュ伝説、また「ロランの歌」にでてくる武器デュランダルを召喚する呪文。シャルルマーニュの12勇士の一人、ロランの持つ名剣。名匠の鍛えた業物であり、強靱かつ鋭い切れ味で、どんな防具もひとたまりもないという。黄金の柄の中には聖遺物（サン・ピエールの歯、サン・パジールの血、パリ最初の司教サン・ドニの髪、サント・マリアの衣の布端など）が収められている。

『地獄出身。無音の蹄。不沈の蹄。羽無しの翼。雲の海、沈没の魂。 “ベエヤード”』
 シャーレマン伝説にでてくる馬ベエヤードを召喚する呪文。石をけつても音をたてず、水の上を歩いて沈まず、翼がなくとも空を飛び、雲の上まで飛べるという。

『黄金の柄。勝利を呼び込み殺害。血吸いの剣。深紅に染まり鞘が収める。 “テュルフィング”』
 北欧の伝承に出てくる剣テュルフィングを召喚する呪文。柄は黄金、切れ味は鉄も服と同じようにやすやす切り、決して錆びつかず、持ち主が誰であれ勝利をもたらす。半ば強制的に造らせたこの剣は、鞘から抜かれると人間の血に染まらなければ鞘におさまらなかつた。

切り付けられたものはその日のうちに死んだという。

『神の門。ジググラト・エ・テメン・アン・キ。天と地の基礎の家。7層に連なる階。シナルの地、落下する煉瓦。名声向上周囲集中。混乱に崩壊。辿り着くことは二度と無く乱れ。真実のその向こう。』

“バベルの塔”』

ユダヤ神話の旧約聖書・創世記に出てくるバベルの塔を召喚考えようによつてはそこに移動する呪文。この塔の建設には40年以上かかり、頂上まで登るのに1年かかったと言う。頂上に着くまで実際は1時間、体感時間は1年かかる40の階で構成されており、1つ階を進む毎に大事な事を忘れていき、思い出すことは二度とない。

『抜けば玉散る氷の刃。“村雨”』

『南総里見八犬伝』に登場する架空の刀村雨を召喚する。鞘から抜くと刀身に露が浮かぶ奇瑞がある。切り付けた部分が凍りつく。

『神族の腕は銀であり剣。四種の神器フィンジアスより来たる。眼前に残党無し。煌煌の剣“クラウ・ソナス”』

ケルト神話に登場するダーナ神族の王、銀の腕又アザの所有する剣クラウ・ソナスを召喚する。鞘から出れば周りの者の目を眩ます。相手は抵抗する事すら出来ずに二分される不敗の剣であると伝えられる。不可視の敵だろうが見つけたし殺す。

『エノク第三書。炎翼の天使、智の天使。神流の栄光であり光輝。7つの天国すら灰燼と化す。“ケルビナー・シェキエル”』

智天使ケルビムの長ケルビエルが携えているというシェキナーの弓を召喚する。太陽の36万5000倍明るいという。弓だけでも相当な威力を発揮するが、これによって放たれた矢は、たとえ紙で作られた矢だとしても鉄筋コンクリートの5階建てビルを一撃で粉砕する。

『神に似た者。七大天使の一人。罪惡の天秤、秤の担い手。光彩の篝火。元始の人々との邂逅。さあ起原に戻ろう。』 “ミカエル・ヨハネ”』

ユダヤ教、キリスト教における天使ミカエルを召喚する。 名前は「神に似た者」の意。 大天使であり、剣と、最後の審判で人間の罪をはかる天秤をもつ。 ルシファーと戦った天使であり、 ヨハネ黙示録ではドラゴンを退治する物語があるせいか、描かれる時も鎧をまとい、剣を持った姿が多い。 人間との関わりが深く、 アダムとイヴを天使たちに紹介したり、 アダムたちに穀物の種を渡すなどしている。

B U I T e 呪文（前書き）

B U I T e の呪文です
更新するかも

B U I T e 呪文

“ 醜惡な心を剥き出す

目には目を、歯には歯を、殺しには殺しを

食い散らかし消化

食い散らかし浄化

食い散らかし昇華

魂の権限を私に

崇高なる獣の下に誓いを

私は救済します”

『 全ての人は肉塊に。全ての物は塵芥に。来いよ死の部屋。 “ ラム
テイル・ヴィーグ ” 』

指定範囲に内側に重力負荷がかかるドームを作る。中の重力負荷は
大体1000G

『 暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い暗い。地に
伏せ、叩き込まれる杭。幾百の杭で喰いちぎる。 “ イステーク・ネ
スダク ” 』

初撃が右手、二撃目が左手を撃ち、三撃目が左脚を、四撃目が右脚
を貫き大地に礎にする。更に杭が体中に降り注ぎ、最終的に心臓を
喰らわれる。

『 冥界の番犬。構成するは双頭の犬地獄の犬。魂を導く死の咆哮。
速く速く速くしないと持っていられる。底無し穴の霊。来たれ “ ス
ロトル・オロスケル・ハウンドヘルベ ” 』

冥界の番犬であるケルベロスを呼び出す。真ん中がヘルハウンド、

左右の顔がオルトロスで構成されている。ヘルハウンド、オルトロス双方の特性に加え、ケルベロス本来の力も備えている地獄と冥界の番犬。

『常世の間をここへ。常夜に。巣くわせ蓄え喰らい尽くす。悪魔の剣。死を運び生とす。“ボスディア・ラ・グロアデイ”』
悪魔の剣を召喚。血を吸うほど切れ味を増し、生物を殺す程強度を増す。

『>>死者の書く。魂の経過に興味は湧く。導く死の魂と旅路。解脱し、生きていけ。“バルド・トエ・ドル”』
触れた相手を安楽死させる呪文。

『寒い。辛い。極限の痛み。崩壊する自我。そして達する。堕ちていけ。“痛過儀礼”』
対象は一步步度に寒さが体を貫き、体が凍るような痛みに苛まれる。

『鬼哭啾啾。電光朝露。鬼の慟哭。泣いたとして変化無し。命短し殺せよ乙女。“鬼人面相”』
BUITEの力を倍增させる。普段より速く、普段より滑らかに動き、華麗に、鋭く対象を殺す。

『静止。制止。止まり動かない。零は無力。正は動作負は動作。“ストップ”』
指定範囲内の動きをなくす。人間は動けないが、ワレラは動くことができる。

『うつむく者。頭を擡げるを良しとせず。ニグリスの泉。瞳の中は死者の国。“ブレパス・ア・イカト”』

眼を見た者を死に追いやるカトブレパスの瞳を自分の瞳に召喚する。
右目は石化、左目は死を司る。

『鳥の鳴き声。黒猫の横断。夜の口笛。瞳を暗く喉は潰れ蝕む頭。
蝕虫毒』^{くちゅうどく}』

対象の指定部位を腐らせる。

『絡む糸。混じる紐。手繰れば縄。救いを求め掴む命。しかし断ち
切る。蜘蛛縄』^{くちまわ}』

精神攻撃。大穴に吊され、下からは炎が噴き出す幻影を見せる。体
を支えているのはたった一本の糸のみ。

『欠乏と貧困。飢えと渴き。老年と死。悲しみと嘆き。極暑と極
寒。悪魔と人間の混淆。』^{こんこう}地上の王座、三首三口六眼の龍。 “A z i

D h a k a ” (アジ・ダハーカ) 』

ゾロアスター教の伝承における怪物アジ・ダハーカを召喚する。悪
神アンラ・マンユの率いる魔物のひとつで、三頭・三口・六眼の竜
だという。世界の終わりには人類の3分の1を殺戮することを運命
づけられているという。

『彼を殺した彼を殺す。破壊者アポリオン。第七階級の魔神の長。
ボルヘスの地獄辞典。殺戮の天使。底なしの穴に巣くう王。到達し
がたい場所。到らず墮とす。 “A b a d d o n ” (アバドン) 』
黙示録の殺戮の天使、底なしの穴に住むデーモンの王であるアバド
ンを召喚する。

『H a n s v o n H a c k e l b e r g , H a n s v o n
H a c k e l n b e r g 。 先導の梟。嵐の通過。狼の名手狼の名犬。
食らい尽くせ “ワイルド・ハント” 』

ヨーロッパの伝承で、狼犬と狼師からなる幽霊の群れ。幽体で人に

対する物理的干渉は出来ないが、鼻がよく利き敵を探し出したりする。

『大いなる冬。 フィンブルテュール fimbulvetyr。殺害とシヴィヤスリト。ギョルヴィの惑わし第五十一章。煤赤色のとさかの雄鶏の鳴き声。諸神の戦いの神々の大いなる運命。世界に終わりが。 “フィンブルヴェトルの冬” 』

古い太陽が光を失うとこの冬がきて、雪があらゆる方向から吹きつけ、霜は厳しく、風は身を切るようにきつい。これが三度続き、その間夏はないという。この冬の空間フィンブルヴェトルの冬を召喚、考えようによってはそこに移動する呪文。

『与え癒す。腐敗の傷に蛆。青白馬の騎手。猶予の30、72の一角。 “サブナク・ソロモン” 』

ソロモンの72の悪魔の一人サブナクを召喚する。ライオンの頭をもつ獯猛な戦士の姿で、青白い馬に乗って現れる。軍事力と築城術の知識を持っているため召喚されるといふ。また癒しがたい負傷を与える、またはあらゆる負傷を癒すともいふ。

『狼憑きの領主。 zmag ognjenivuk。運命の殺し。 “ツマグ・オグンジェニ・ヴク” 』

ボスニア、セルビアの伝承の怪物、ドラゴン殺しの英雄であるヴクを召喚する。名前の意味は「気の荒いドラゴン狼」。伝説的な15世紀の狼憑きの領主「暴君ヴク」で、この大君主は前腕に赤毛の生えた血のように赤い母斑があり、火を吐く狼憑きだと思われるという。

『全てを知る者、回答者。罪悪に対する行為を施行する者、報復者。鎖の断絶、壊せぬ物無し。 “フラガラツハ” 』

ケルト神話に登場する剣フラガラツハを召喚する。その一撃は鎧で

止めることは不可能であるという。さらに、どんな鎖も切り裂くことができるとされる。抜こうと思うだけでひとりでに鞘から抜け、手におさまるといふ。また、敵に向かって投げれば、剣自らが敵を倒し、手元に戻ってくる。さらに、フラガラッハによってつけられた傷は治癒されないといわれる。

『死後の馬に飛び乗れ。死に装束をつける。死後にとる食事を食べる。火の海を越え氷の丘に來い。されば太陽は戻るだろう。』
「エクシユキユ」[㊦]

サハ民族の伝承の大蛇エクシユキユを召喚する。人間の国と川で区切られた向こう側の世界を支配している。燃える火の海を越えた、氷の丘の上の巢に棲んでいる。

『往々にして残るもの無し。泣き叫ぶもの無し。殲滅の行進、優越の凱旋。地獄の来訪者。』
「エクスタルタロ」[㊦]
偽装呪文。

『72柱の1柱。序列13、85の軍団を収める魔神。怒りの召喚、ハシバミの杖を向け描く。奏者の鼓動に合わせ出陣。護符となる銀の指環。忘れることなく死の指へ運べ。我は告げるソロモンの封印を破る主。来たれ怒髪衝天の王“ベレト・ソロモン”』[㊦]

ベレトはソロモン72柱の魔神の1柱で、地獄の85軍団を従える序列13番の恐るべき大王である。青白い馬にまたがりトランペットをはじめとする楽器が鳴り響く中で現れる。召喚された時点で既に激怒しており、召喚者は彼の怒りを免れるためにハシバミの杖で南東の方角に向かって正確な三角形の結界を描き、召喚儀式に従ってその中に入るように命じなければならない。ベレトに命令する際には絶対に王者に対する礼儀を欠いてはならず、また常に左手の中指に護符となる銀の指輪をはめて相手の顔に向け示し続けなければならない。

『真の影。 “影の王冠”』
スキア スデマ

ベレトの持つ漆黒の剣。

『44の軍勢、無限であり夢幻の攻域。最高末路の生き地獄、解放にして開放の死路。準備は出来た。最上の待つ戦争を辿れ。“ロード・デス・ウォーヘル”』

偽装空間の様なベレトの箱庭。過去に彼が堕とした城、戦車、兵士などが飾ってある。別にそれらを使うというわけではなく、単にベレトが寛ぎたい時、気に入った相手を招きたい時などにこれを使用する。また“フィンブルヴェトルの冬”などの偽装空間呪文を使えないベレトが本気を出したい時に使う。

『祭壇に捧ぐ全能なる象徴。霞の向こうに残る眠り。水平線が地平線に混じり極光。錆つく鉄鎖に刻印。天蓋に昇る終焉の柵。砂上の楼閣にて黎明の寝に就け。“Deus Occiditur Terrarum”』

偽装呪文。そこで精製する武器は全て神殺しの武器で、一撃刺されば対象は神性を失う。

『72柱の1柱。序列66、20の軍団を収める魔神。勇猛なる黒光りの戦士。文学を与え、勇猛心を与え。悪霊の統括。迅速なる行動値。来たれ勇猛果敢の戦闘神“キマリス・ソロモン”』

キマリスはソロモン72柱の魔神の1柱で、地獄の20の軍団を率いる序列66番の強力な大侯爵。黒い名馬にまたがった黒い肌の勇猛な戦士の姿で現れる。アフリカの全ての悪霊を統括しているとされる。召喚者を勇敢にしたり、召喚者に完璧な文法・論理学・修辞学を教えることができ、また失くしたり隠された事物や財宝を見つけて出すこともできる。人を兵士の姿に変化させたり、海や川を迅速

に渡らせたりすることができる。

『桎梏しごくの力。ただ単純に圧倒し壊す。』マヒデオス “戦闘神”[㊦]

刀身3mの大剣。

『真桎梏しごくの力。ただ単純に圧巻し殺す。』アリスマヒデオス “真戦闘神”[㊦]

刀身6mの大剣。“戦闘神”の3mに今までキマリスが粉碎してきた剣の破片が加わるにより6mの大剣を形成している。

『文化の遺産。666の軍勢、全ての智慧が詰まる家屋。無限の回廊に無数の螺旋。連なる階は塔より劣り5連。ヴィヴリオスイキ然りとて劣るはずもなく、叡智を受け継ぐ狼煙は上がる。』“図書館”[㊦]

偽装空間の様なキマリスの書庫。この世とあの世、天の国地の国全ての書物が備えられている。多数のグリモアも保管されている。

『72柱の1柱。序列44、30の軍団を収める魔神。命を運ぶ鳥感覚の与奪者。財の限りを集め与え。来たれ虚言の侯爵“シャックス・ソロモン”』[㊦]

シャックスはソロモン72柱の魔神の1柱で、30の軍団を率いる序列44番の地獄の大侯爵である。召喚すると、しわがれているが繊細な声で話すコウノトリの姿で現れる。召喚者の命に応じて人の視覚、聴覚、理解力などの知覚を奪い去ったり、金や馬を盗み出す力を持ち、優れた使い魔も与えてくれる。また、神聖な事柄や悪魔たちが守っていない隠された財宝のことも教えてくれる。シャックスはあらゆる点において召喚者に忠実で従順であると約束するという。ただし、シャックスは魔法陣の三角形の中にいない限り嘘をつく。

『イリュ解明。一重二重三重四重。連なる列なる層44。対象“”。』エジ “解

除”
☞

対象の呪文を解除する。

全体的設定（前書き）

全体の設定です
更新するかも

全体的設定

ワレラ

罪を犯し、罰を受けない者に相応の罰を与えるための部隊

ワレラになれるのは咎人だけ

咎人で、犯した罪に正義や歴とした意志がある者、またワレラに浄化された時に生きたいと強く思うか、唯一やり残したものがあつた者のみ

更に、その殺しに正当性があつた者のみという条件もある

ワレラは二つのクラスで構成されており、KnightとNightのダブルミーニングであるナイトとBuyとBiteを組み合わせたByteがある

『犯罪の透視』

対象が犯した罪を見ることが出来る目をワレラは持つ。あまりにも小さい罪は見えない。

『膿の見掛け』

ワレラの存在を究極的に薄くしている“膜”のようなもの。正か負の状態のワレラを視認出来るのは、正零負の状態のワレラと、殺意を向けられた人間、直接接触された人間のみ。カメラやビデオなどの映像媒体では、ワレラの姿全体がぼやけ、まともに写すことは出来ない。

『膿体化』

基本的に使用不可能な特権。投げ所から現世に戻つた数秒くらいしか普通は膿体になることはない。D・G0などの特殊なワレラくらいしか使うことは出来ない。

オムニス ペリオリスモス テッラ
『全てを束縛する国』

『曲解の輪廻』を作り出している特性。個人の特性ではなく、言わば世界の特性である。ただこれを保ち、担っているのは不快者のVe・IE。束縛などは全てにとつて不快の対象なので、不快者であるVe・IEくらいしか支えることが出来ない。

『魂補充』

ワレラが咎人を10人、または同胞を1人殺す、もとい浄化する度に魂を一つ得る。実際は各ワレラがおのおの持っているわけではなく、『全てを束縛する国』に魂が集まっている。

ユニオン

二つ以上の呪文を組み合わせる使うこと。 “千刃の谷・グロアディ” など

召喚体

呪文により召喚される武器や防具、人、竜などの架空の生命体などのこと。使えば使うほど経験値を溜め強くなっていく。しかし折れたり敗北したりして消滅した場合はまた初期の段階へと戻ってしまう。レベルを上げるには基本的に咎人や同胞を狩るしかない。そしてレベルが上がると共通特性や個別特性を修得していく。

特性

共通特性とは名の通り全てに共通する特性で個別特性は武器によつ

てそれぞれ異なる特性のことである。

共通特性“武器”

ワレラⅡ咎人10人分

召喚体LV1Ⅱ咎人5人分

召喚体LV2Ⅱ咎人10人分

召喚体LV3Ⅱ咎人15人分

召喚体LV4Ⅱ咎人50人分

ⅡLV5 青

LV6ⅡLV10 赤

LV11ⅡLV15 銀

LV16ⅡLV19 金

LV20 黒

LV1 咎人5人 『折れにくさ?』

武器が若干折れにくくなる

LV2 咎人10人 『使い勝手』

使い勝手がよくなる

LV3 咎人30人 『重さの無視』

持ち手に合わせて重さが変わる

LV4 咎人100人 『形状無視』

持ち手の思い描く形に変化する

LV5 咎人150人 『追撃?』

切り付けた時にもう一撃斬撃が飛ぶ

LV6 咎人170人 『幻影化』

刀身や矢などを不可視にする

LV7 咎人200人 『追撃?』

切り付けた時にもう二撃斬撃が飛ぶ

Lv 8 咎人300人 『疑似の間合い』

『幻影化』を使っていない時に使用可。刀身が見た目より1.5倍程長く、幅も1.5倍程広くなっている

Lv 9 咎人350人 『追撃?』

切り付けた時にもう三撃斬撃が飛ぶ。さらにその三撃から一撃ずつ派生させられる

Lv 10 咎人400人 『同化』

武器と使用者の同化。つまり剣が人に人が剣に。『使い勝手』以上に使いやすく、より折れにくくなる。剣が負ったダメージは剣が、人が負ったダメージは人がそれぞれ受けるのでダメージが2倍になるということもない

Lv 11 咎人600人 『折れにくさ?』

武器が折れにくくなるに加え、使用者の体も丈夫になる

Lv 12 咎人700人 『山の銅』

武器が折れなくなる

Lv 13 咎人750人 『炎纏』

刀身に炎を纏う

Lv 14 咎人850人 『氷纏』

切り付けた部分を凍らせる

Lv 15 咎人1000人 『離反』

『幻影化』と『疑似の間合い』を同時に使える

Lv 16 咎人1500人 『雷纏』

刀身に雷を纏う

Lv 17 咎人2000人 『双頭』

直ぐに消える“千刃の谷”とのユニオンと違い、手に持って使える

召喚体をもう一本召喚する

Lv 18 咎人2500人 『剣雨しんく』

選択範囲に召喚体の雨を降らす。呪文ではないので詠唱無し

Lv 19 咎人5000人 『剣岳』

選択範囲の地面から召喚体が飛び出てくる。呪文ではないので詠唱無し

Lv20 咎人15000人 『天啓』

一日一人無条件で殺せる

共通特性“英雄”“悪魔”“竜”etc

咎人がワレラを殺すか相手の召喚体を倒す度に経験値を得る

ワレラ⇐咎人10人分

召喚体Lv1⇐咎人5人分

召喚体Lv2⇐咎人10人分

召喚体Lv3⇐咎人15人分

召喚体Lv4⇐咎人50人分

＼Lv5 青

Lv6＼Lv10 赤

Lv11＼Lv15 銀

Lv16＼Lv19 金

Lv20 黒

Lv1 咎人5人 『耐久力？』

若干死にくくなる

Lv2 咎人10人 『意志疎通？』

半径100m以内なら離れていても会話出来る

Lv3 咎人15人 『(羽無し)飛行(羽有り)スピード？』

羽の無いものは若干飛行可能に。有るものは1.5倍速く動ける様になる

Lv4 咎人30人 『(羽無し)スピード？(羽有り)サイレンス』

羽の無いものは1.5倍速く動ける様になり、有るものは羽はたか音がしなくなる。

LV5 咎人50人 『耐久力?』

死にくくなる

LV6 咎人100人 『スピード?』

3倍速く動ける様になる

LV7 咎人150人 『距離の無視』

5m以内に瞬時に移動出来る

LV8 咎人200人 『意志疎通?』

半径300m以内なら離れていても会話出来る

LV9 咎人350人 『鷹目』

500m先に落ちている一円玉が見えるくらいの視力を与える

LV10 咎人400人 『高速』

10倍速く動ける様になる

LV11 咎人600人 『聖者?』

ナイトの召喚体であれば“千刃の谷”、BUITEであれば“ラムテイル・ヴィーグ”を使えるようになる。詠唱拒否は不可能

LV12 咎人700人 『耐久力?』

一回だけ死んでも直ぐに生き返られる。レベルのリセットもない

LV13 咎人850人 『盛毒』

対象に毒を盛る

LV14 咎人1000人 『幻影化』

ワレラや召喚体から姿を消すことが出来る

LV15 咎人1500人 『同化』

召喚体と召喚者の同化。つまり召喚体が人に人が召喚体に。

LV16 咎人2000人 『聖者?』

ナイトの召喚体であれば“ソードフィッシュ”、“スレイ・ライ・サントエク”、BUITEであれば“イステーク・ネスダク”、“鬼人面相”を使えるようになる。詠唱拒否は不可能

LV17 咎人2500人 『双頭』

召喚体が自身を一体召喚する。Lv1で喋ることは出来ず、戦うことしか出来ない。これが咎人を殺したりした場合の経験値は召喚体に入る

Lv18 咎人5000人 『聖者?』

ナイトの召喚体であれば“ベエヤード”、BUITeであれば“ブレパス・ア・イカト”が使えるようになる。詠唱拒否は不可能

Lv19 咎人15000人 『天啓』

一日一人無条件で殺せる

Lv20 咎人30000人 『ワレラ』

召喚体自体がワレラになる。ナイトの召喚体はナイトに。BUITeの召喚体はBUITeに

個人の固有特性

左字の『最奥の地下水路』や妙の『ハンシャの国』のような、ワレラが一個人として持っている特性。

“国”や“空”、“海”とつく特性もあり、基本的に国、空、海の順に強力だが、そもそも特性毎に性質が違うのだから比べるのはあまりよろしくない。

主に自らの呪文を強化させたり、自らを守ったり、精神を攻撃するものがある。

自らの精神構造を弄りそこに相手を飲み込む『最奥の地下水路』、自らに仕掛けられた呪文を跳ね返し更に相手の呪文を不起動とさせる『反射>ハンシャ<の国』、負の深層心理に引きずり込む『心理の国』、オリジナルの5割強コピーを作り出す『守護神』は個人の固有特性の最たると言える。

離れればこそ見えるモノもある（前書き）

彼は苦い。

他に尽くすなんて凡そ人がやることではないのに。

彼は甘い。

他を慈しむなんて凡そワレラがやることではないのに。

私たちは所詮魂の狩人。

他の魂を自らに、自らのために循環させる極めた利己主義者なんだ。

君は確かに苦いし甘い。

けれど君の存在意義、義務、思考する必要の無い犠牲を理解している。

理解していると思っていた。

けどダメだったみたいだね。

君は一旦離れる。

新西より遥かから足音を響かせおいで。

離れればこそ見えるモノもある

光の膜が消え、落ちたクラウ・ソナスも消えた。

そしてそれらより前に消えた吾桑は消えたまま戻ってこない。

S・A「・・・一体なにが起きた。ヴールの奴も姿が見えないし・
・・・」

そうだと宮真。

アイツは何処だ。

まだ畳の部屋に居るということは奴も此処に

「真理ならもう出てったよ。不快者を連れてね。」

S・A「・・・特性反射か。何時から見てたんだ妙。」

T・O「・・・最初から。君が建設予定地に来た・・・時から更に遡った30分程前からね。」

S・A「は・・・。ホントに最初からだな。客観的に見ていたお前なら分かるよな?」

T・O「・・・快楽者のこと?」

S・A「ああそうだ。どこに行った。」

T・O「・・・んゝ難しい質問ね。敢えて言うなら不快者と一緒になつたってとこかな。」

S・A「それは一体どういう意味だ!」

T・O「・・・『快楽主義者の空』を不快者に埋めたのよ。結果、快楽者の体は消滅。この世から幸福は消えましたとさ。めでたしめでたし」

S・A「ふざけるな!」

気づけば俺は、妙の襟首を掴み桜の木に押さえ付けていた。

S・A「なにがめでたしだ!ふざけるのも大概にしる!」

T・O「・・・なにイライラしてんの左宇君?」

S・A「人の・・・!数日とは言え一緒に過ごした奴が死んで何がめでたしなんだよ!答えるハンシャ!」

T・O・・・初めてハンシャって呼んだね左宇君。ホント君は甘いよ。」

S・A「・・・なに？」

T・O・・・「本当は私のことを怒りたくない。けど怒らなきゃならないからせめて違う名を責める。それで私が受けるであろうシヨックを少しでも軽くしようとした。ね？」

S・A「・・・だったらなんだ。お前に対して腹を立てているのに変わりはないぞ！」

T・O・・・「分かってるよ。」
こいつ・・・。

T・O・・・「あのね左宇君。私たちが生きてる世界に勧善懲悪なんて言葉は存在しないよ？」

S・A「・・・はあ？」

T・O・・・「左宇君もそれくらいは理解してるって思ってたんだけどな。」

S・A「そんなものはお前の勝手な解釈だ！」

T・O・・・「・・・かもね。」

要領を得ない事ばかり話しやがって・・・。

普段なら妙のふざけた話も聞き流せるが今はダメだ。

怒りの蓋が今にも開きそうだ。

T・O・・・「・・・他の犠牲無くして生存は有り得ないの左宇君。

快楽者の犠牲も貴方の犠牲も、全ては生存に繋がるの左宇君。だったらいいじゃない左宇君。」

・・・もうダメだ。

S・A「・・・今、今分かったよ。お前はおかしいと思ってたがそれは寸分違わず本当だったらしいな！いや俺が思っている以上、10割増しでお前は狂ってる！」

犠牲がなきゃ生きられないなんてのは嘘だ・・・。

T・O・・・「・・・分かったよ左宇君。」

S・A「・・・なんでそんなに俺の名を呼ぶ。」

T・O・・・だつてね左宇君。当分呼ばなくなりそうだから今のうちに言っておこうと思ったんだ。」

S・A「意味が分から
腹に違和感を覚える。」

食道を競り上がる嘔吐感。

瞬時に口に鉄の味が広がった。

S・A「ごほっ・・・。」

T・O・・・。」

これは・・・デュランダル・・・？

背中に手を回すと剣先が指に触れ、当たり前の様に指から血が流れる。

デュランダルを・・・詠唱拒否だと？

T・O・・・私から離れなよ左宇君。」

当たり前の様に口から血が溢れてくる。

ヴュールとの戦闘でも阿呆みたいに流したが、所詮欺体なのに血なんて必要ないだろ。

T・O・・・そしてね左宇君。外環から私たちを眺めなよ左宇君。

それで理解出来たら私のところにおいで左宇君。」

S・A「意味・・・分からない・・・。」

T・O・・・左宇君。」

S・A「なんで、俺の名を呼ぶ・・・？」

T・O・・・一時お別れだからだよ左宇君。・・・“魂の権限を私に”。>>死者の書く。魂の経過に興味は湧く。導く死の魂と旅路。解脱し、生きていけ。“バルド・トエ・ドル”。」

妙の右手に死の色が宿る。

T・O・・・じゃあね左宇君。遥かから足音を響かせおいで。」

「

右手が俺の体に迫る。

避けようとは思えないし避けられるとも思えない。

T・O・・・バイバイ左宇君。ごめ
「

妙の言葉が途中で途切れ、ついでに俺の意識も一時停止した。

離れればこそ見えるモノもある（後書き）

また此処に来るとはね。

OZ「意見の不一致か。離婚の理由みたいだな。」

S・A「馬鹿言うな。結婚していないのにどうやって離婚すんだよ。」

OZ「ま、良い機会だ。世界中を回らせてやる。」

S・A「そんなことして何になるってんだよ。」

OZ「人は千差万別多種多様に存在する。人という括りはあれやはり同じ人間は存在しない。考え方もまた然り。」

S・A「……つまり、世界中回って様々な考え方を感じてこいつてことか？」

OZ「理解が早くて助かる。」

S・A「……。」

新西市に戻ったところでまた妙に殺されるだけか。

それを抜きにしても今あいつとなんか会いたくもない。

OZ「因みに不快者だが……。」

S・A「そうだ……奴はどうなった！」

OZ「これから話そうとしとるじゃないか。黙って聞け。快樂者が『快樂主義者の空』を不快者に打ち込んだ。これは知っているな？ それによつて不快者の中の不快がかなり弱まった。不快者はこれから1年眠りに就く。」

S・A「じゃあその間に殺せば……。」

OZ「そんなことをすると、快樂者も完全に死ぬぞ。」

S・A「そりやどつという意味だ！」

OZ「喚くな……。ま、とにかく不快者は休むんだ1年。その間に世界中を回つて、お前と同じ考え方の奴を見つけたす。どうだ？ さつき出した理由より合理的ではないか？この理由があれば、今回の旅にも意義が見出せられる。違つか？」

S・A「・・・。1年間起きないって情報の信憑性は。」

OZ「100%だ。彼女が最後に残した希望を疑うとはなかなか厳しいなS・A。」

S・A「ふん。」

事の末路を知らないのに信用できるか。

S・A「・・・分かった。あいつも言っていた。俺はまだいける。生きている限り何処までも行ってやるよ。」

あいつが成し遂げたかった事を完遂するために。

OZ「よろしい。では行け。まずは味方を作りにな。」

OZが手をパンと鳴らし、俺の意識は再び消えた。

・・・何処へだって行ってやる。

プロローグ - 嘘は嘘 -

嘘には基本的な2種類がある。

すぐばれる嘘と、時間が経ってからばれる嘘。

そして永久にばれず墓場まで持つていくか、自ら暴露する嘘の3種類だ。

まず第一の例として挙げられるのが『嘘には基本的な2種類がある』という嘘だ。

すぐばれる嘘を吐く奴は間抜けだと思いかもしれないがそうではない。

すぐばれる嘘を吐くのは慌てているからという訳でもなく、心に潜む“罪悪感”から来るものなのだ。

嘘を吐くのは良くない。

だけど怒られたくない。

けど嘘はダメなんだ、という罪悪感がすぐばれる嘘を吐くのだ。

ま、別の見方をすればすぐばれる〃すぐ怒られる〃短いお叱りで済むとも・・・。

オホン、時間が経ってからばれる嘘の例を挙げよう。

あるところに兄弟がいた。

母親が外出中兄は、食べてはいけないと言われたお菓子を食べてしまった。

弟にも食べさせこれで同罪。

告げ口すればお前も怒られるぞ、と脅し口止めとした。

けれども、それではまだばれる恐れがあると考えた兄は弟を殺し埋めました。

数時間後、母親が帰ってきて兄に聞きました。

お菓子を摘んでないだろうね？

兄は答えます。

勿論さ、僕は約束は守るよ！

母親は聞きます。

弟の奴は何処に行ったんだい？

兄は答えます。

遊びに行ったよ。

母親は言います。

こんな時間にかい、全く何処に行ったのかねあの子は。
兄は言います。

さあね、探してこようか？

さ、長くなったのでこの辺で切りましょう。

今回の話は嘘とは全く、関係ありません。

V E N E N O

・・・ん？

体中が痛い。

えー・・・俺は・・・んー・・・。

思い出した、OZに送られたんだどこかの国に。

送られた時夜だったのも手伝って、路上で寝てしまったんだ。

そりゃ体も痛くなるわな。

体を起こし座る。

S・A「んー、ああ・・・。此処は一体どこの国なんだ。」

「ブエノスディアス！」

S・A「どわっ！？・・・は？なんだあんた！」

背後から男が話しかけてきた。

びつくりしただろうが！

男「ハラペーニョーガラパチア？」

こいつは何を言っているんだ。

S・A「あー・・・アイキャンスピークジャパニーズオンリー。ア

イアムジャポーネ。」

男「オーウジャポーネ！メディシナベロシナカランペロンチーノ

？」

・・・こいつ頭おかしいんじゃないかねえのか？

S・A「日本人だつつつてんだろ。喚くなよボケ。日本語かせめて

英語で話せや！出来ないならどっか行け！」

男「ンンー。ポドリアトラエルメルメエルデサジュノラコミダラセナ

アミアビタシオンポルフアボール。」

この野郎・・・。

寝起きで、しかも体中が痛い。

S・A「最高にいらついているんだよ今！アイアムアングリー！ユア
ヘッドイズクレイジー？！アーハーン？！」

「ポドリアブスカルメアルグンテルプレテデハポネ？」

もう一人背後から来やがった……。

S・A「だから……アイアムジャポーネつつて」

「日本語の通訳が必要かなお兄さん？その男はな、あんたに麻薬いらねえかつつつてんの。ドリーアンダースタン？」

S・A「は……？」

一体誰だこいつは。

男「ヘイシオン！ヨエネジャスルンマジャ！」

シオン？「あ？ふざけんなよタコ！同郷の友にヤク売ろうなんざこの俺が許さねえぞ？」

男「オ、オーウ、ハハハ。サンルイカダウジヨ。ジャ、ジャアナシオン。」

新たに現れた男の気迫に押されたのか、先の男は舌打ちしながら行つてしまった。

シオン？「つたくあの野郎は。」

S・A「あ、あの一。」

シオン？「ん？ああ大丈夫だったか？」

S・A「あ、いや、うん。助かったよありがとう。」

シオン？「ははは、なんてことないよあれくらい。……あんた、此処で寝てたのか？日本人だよな？」

……一体どうやって説明すべきかな。

S・A「まず二つ目の質問に答えるよ。俺は日本人だ。あんたもそうみたいだな。」

シオン？「ああ。生粋のジャポーネさ。」

S・A「そりや良かった。……あー、一つ目の質問だが……。」

シオン？「分かった。みなまで言うな！」

S・A「は？」

シオン？「お前は見たところパスポートを持っていない。つまり不法入国だろ？」

S・A「あー……。」

違う、と言い切れない所が痛い。

やり方はどうあれ不法入国みたいなもんだ。

S・A「・・・いや不法入国つつーか不可抗力つつーか。マグロ漁船・・・は関係ないし・・・。」

シオン?「あはははは!面白いなあんだ!いいよいよ何だって!取りあえず飯でも食いにいこうぜ兄弟!」

S・A「お、おう?」

・・・一体此処はどこなんだ!

酒は飲んで溺れる！飲酒は20歳から

シオン？「カルド・デ・レス。牛肉のスープだ。カルネ・アサーダ、ステーキだ。クエルボ、サウザー、ドン・フリオ、テキーラ・サンライズ、コロナビール。好きなものを飲めよ！ははは。」

麻薬を売られそうになり、テキーラを飲まされようとしている。今分かった。

此処はメキシコだ。

・・・えーと、アメリカの下とかそんな感じだったかな？
地理はダメなんだよ。

S・A「朝からこんなに食って飲むのか？」

シオン？「当然だ。ははは、なんだ？朝は食わない派か？」

S・A「ま、まあこんなには・・・食わないかな。」

今は食べる必要がない体だから普段は食べていない。

まともな人間の時も抜いてばかりだったけど。

シオン？「そりゃいかな。朝飯は一日の活力と言っても過言じゃない。朝からテキーラを飲まなきゃメキシカンじゃねえぞ！」

S・A「俺メキシコ人じゃないし。・・・いやお前もメキシコ人じゃないじゃないか。」

SION「あはははは細かい事は気にしちゃノーだぜ。っとそういやまだ自己紹介してなかったな。俺の名前はシオン。S、I、O、Nでシオン。どうだ？イカす名前だろ？」

S・A「あ、ああそうだな。俺は阿部左宇って名前だ。左宇とでも呼んでくれ。」

SION「左宇ね。よろしく。取りあえず飯はいい。コイツを一杯やれよぐいっと。」

ジヨッキになみなみ注がれたテキーラ。

洋酒なんて飲んだことねえよ。

SION「ほれどうした？ぐいっといっちまえ。」

・・・まあ欺体だから大丈夫か。

S・A「よし・・・。んっ！ん、んんん。」

SION「あはははいい飲みっぷりだ！」

S・A「ごくごくごくごく。」

SION「・・・いやちよつと待て。ぐいっとは言ったが一気は不味いんじゃないか？」

S・A「・・・ぷはー。」

不味・・・。

SION「大丈夫か・・・？」

S・A「ん？ああ大丈夫。意外とイケるもんだな。」

SION「・・・。あはははあはははははは！お前やつば面白いわ。」

S・A「そうか？」

SION「ああそくだそくだ！気に入った！同郷のよしみだ、お前が何しに来たか知らねえが世話してやるよ。」

S・A「そうか？」

助かると言えば助かる。

金もなければ家もない。

食う必要も寝る必要もないから気にする必要もないかもしれんが・・・。

孤独は人を押し潰す、かな。

初めての海外だし誰かと一緒の方が安心だろう。

S・A「じゃあ・・・よろしく頼むよシオン。」

SION「おうよろしくな左宇。」

この固い握手が一生物になるとは思わなかった。

NARCOTIC SYNDICATE .

SION「潜入捜査？」

S・A「ああ。此処はヤク中や密輸業者の吹き溜まりだろ？地元警察も辟易してる。そこで外部の俺達に依頼がきたんだ。」

SION「ふーん？嘘だろそれ？」

S・A「・・・ま、信じるも八卦信じないも八卦だ。・・・そうだな、例えばあの倉庫。秘密なんだがあれは麻薬貯蔵庫なんだよ。」
適当に指差した倉庫に汚名を着せる。

スマンな適当な倉庫。

SION「ああ知ってる。」

S・A「知らなかっただろってなんでやねーん。」

いくらメキシコって言ってもそうホイホイ麻薬貯蔵庫なんてないだろ・・・。

SION「ここら一帯の倉庫は全部そうだぜ。警察は勿論そこらのガキだつて知ってる。」

S・A「・・・クレイジーだな。・・・オホン。俺は此処の麻薬シンジケート？を駆逐するのが仕事なんだよ。」

SION「此処は確か100くらいのシンジケートが鎬を削ってるぜ？」

S・A「・・・全部だ全部！全部ぶっ壊してやるよ！」

SION「おういいな。」

S・A「へ？」

SION「俺もそろそろぶっ壊そうと思ってたんだよ。あはははは爆破は任せといてくれ！」

S・A「あはははははそりゃ心強い・・・。」

おかしな話になってきやがったぞ。

シンジケートをぶち壊すのはいい。

なんたつて咎人が溜まってんだからな。

ただそこに一般人を巻き込んでいいのか？
んゝ・・・。

「ヘイ！テメラナニヤツテンネン！」

S・A「な、なななんだあ？！」

脇道から男が出てきた。

SION「倉庫を見てたんで絡まれたな。」

S・A「面倒だ。ほかつところ。」

男「ウェイウェイウェイ！」

無視して行こうとしたら回り込まれた。

男「ナニヤツテンツテキイトンネン！テメラタダジャカエサヘン
デ！」

んんん？

俺は天才か？

スペイン語が理解できてる気がする。

しかも関西弁風に。

男「ヘイ！キイテンノカコノヤロウ！」

S・A「ち、喧しいな・・・お？」

男「ナ、ナンダヨ？」

男の背後に回り込んでみる。

『サツジン』7回、『IHOU薬物TOUYO』20回、『NAR

COTIC SYNDICATE』・・・？

カタカナと漢字にローマ字、最後は英語。

殺人と違法薬物投与は分かるが、なんたらシンジケート？

SION「麻薬シンジケート。まさにお前が狙ってる獲物だよ。」

我は成す我を成す”」

え？

SION「Createナイフ。『フオティア火となり灰となれ』。」

男「ナンダイツタ、ガ・・・アガ・・・。」

SION「・・・死ぬほど溜めた。もう十分だろ。“エクス”。」

男「ガバ・・・タハ・・・！」

S・A「な・・・！」

男に刺さったナイフが爆発した。

いや、正確にはナイフの刃、つまり男に刺さった部分だけがだ。

恐らく破片は男の体の中に飛び散り致命傷を与えた。

現に男は倒れ、地面には腸と血が飛び散っている。

S・A「お前・・・。」

SION「男のスペイン語はそれなりに和訳されたか？文字は完璧じゃないみたいだな。」

S・A「お前もワレラだったのか？」

SION「ああ。SION。お前はS・Aだな。11位の水路。」

S・A「左宇だ。」

SION「そうかスマンな。」

S・A「いつ気付いたんだ？」

SION「名前を聞いたときはピンとはこなかった。ランキングで“S・A”という名は知っていたが阿部左宇なんて知らなかったかな。」

S・A「・・・じゃあ俺の特性は？」

SION「『エラヒストス タナトス最奥の地下水路』。えらいけつたいな名前やわ。」

・・・さてどうしたもんかね。

俺はこいつのことを知らない。

ワレラのランキングがあるってのは知っているが、まともに見たことはないからな。

特性は恐らくさつき使った『火となり灰となれ』ってやつだ。

爆発させるのがその能力だろう。

SION「ヘイ！ヘイヘイヘイ！左宇！」

S・A「・・・聞こえている。」

SION「なんやえらい考えとるみたいだけど、俺はお前を殺そなんて思てへんで？」

S・A「なんで関西弁風に話すんだ？」

SION「なんでやるね話しやすいからとちゃう？」

いやちゃう言われても分からんちゅうねん。

SION「俺はな、自分で言うのもなんだが基本的に正義や。皆大好き深部ちゃんよろしくな。あはははは。」

S・A「シンプちゃん？」

誰だそりや。

SION「ああ自分知らんか？D・Wノ、轍醍醐や。知らんか？」

S・A「醍醐か！深部・・・ああ。」

あいつの特性は・・・ってよく考えたらあいつの特性なんか知らんわ。

SION「深部の特性は『^{カデユタ}深部に至るは全てを知った^{フロフォンダ}』。えらいかつこええ名前だろ。能力自体も」

S・A「いやいい。あいつと戦うことはないだろうし戦う気もないからな。聞くとしてもあいつ自身からだ。」

SION「さよか。ほな行きますかね。」

S・A「・・・何処に？」

SION「おいおい。自分記憶力無さすぎちゃう？麻薬シンジケートぶっ壊そう言ったやん。手始めに此処らの倉庫一掃するで。」

・・・本気だったのか。

まあいいか。

体のいい小遣い稼ぎだ。

殺しには殺しを

散らばる白い粉。

小麦粉、片栗粉、コーンスターチ、澱粉、何故かそば粉にわらび粉。極めつけは大麻、ヘロイン、メタンフェタミン。

S・A「・・・なあ。」

SION「ああ?!なんか言ってたか左宇!」

S・A「いや・・・なんでもないです。」

これはあくまでも仮定だが、普通の倉庫も爆破しているんじゃないだろうか。

だって小麦粉が飛び散ってんですよ?

・・・ま、深く考えないでおこう。

SION「・・・しかし詰まらん。」

S・A「何が?」

SION「爆破に驚きよって皆逃げていってしもたやん。これじゃ魂補充は稼げんで。」

S・A「確かに。」

俺としては小麦粉を大切にする従業員を殺さずに済んで助かってるけど。

SION「ま・・・カルテルの本部が此処にあるわけやないしな。前哨戦みたいなもんや。」

S・A「そうか。」

“千刃の谷”。

最後の倉庫に“千刃の谷”を叩き込む。

“ひえあ!?”

S・A「・・・何か聞こえなかったか?」

SION「悲鳴、やないか?」

粉が詰まった袋に囲まれうずくまる男。

結構マツチヨだけど・・・さっきの悲鳴はこいつがあげたのか?

S・A「情けねえな。ほれ、立てるか？」

手を差し延べてやる。

意識を向けないまま、若干届かないようにだ。

いきなりだがワレラが、ワレラと一般人を見分ける術はない。

一般人の方がワレラを見分けられるんじゃないかとも思える。

何故なら、正だろぅが負だろぅが零の状態だろぅがワレラには見え
てしまうからだ。

街中で剣を振りかざしていれば分かるが、そんな奴は滅多にいない。
一般人は正、負のワレラは見えないから普段は無論意識出来ない。
が、ワレラから意識を向けられれば視認出来る。

何故こんな話をしたか。

今俺は意識を向けず、更に手を伸ばさなければ届かないように助け
船を出した。

S・A「ふん。なににお前は船のへりを掴んじまった。」

SION「成る程頭ええな自分。」

S・A「・・・お前、ワレラだな？」

男「ア・・・アアソウダ。」

S・A「こんな所で何してる。」

男「オマエタチトオナジダヨ！コノソウこをぶちこわそうおもった
んだ！だのにお前らいきなり色々ぶち込みやがった。」

随分滑らかに理解できるようになった。

S・A「ふーん。」

SION「なんや？納得出来へんのか？」

S・A「・・・いいや別に。・・・ん？」

男「全くビビったよマジで。」

男がパンパンと体についた様々な白い粉を払いつつ俺達に背を向け
た。

S・A「・・・あれって？」

SION「成る程な。」

男「ん？どうしたよ？」

男の背中に堂々と書かれている。

『MURDER』。

S・A「お前、一般人を殺してるな？」

男「・・・何の話かさっぱりだな。」

初めて一般人を殺したワレラに会った。

ワレラも殺しをするが、咎人ならそれを罪と見做すことはない。

だが、一般人を殺せば確実に罪だ。

殺されるべくして殺される咎人はまだしも、殺される謂れの無い一般人を殺すのは大罪なのだ。

その過ちを犯した者の背中には大きく『MURDER』と書かれる、とOZに聞いた。

S・A「生かしておく価値はない。」

男「は！戦うなら戦うけは・・・くぁ・・・！」

SION「後方不注意や。」

男「ひきよ・・・うな野郎だ・・・！」

SION「なんとでも言え。ほなさいなら。」

爆発音と共に男の腹から血が噴き出した。

S・A「・・・聞いていいか？」

SION「なんや？」

S・A「例えばワレラが麻薬シンジケートに入ってたとしても『犯罪の透視』で見えるのか？」

SION「いんや。『MURDER』しか見えへん。だからこいつがどつかの組織の一員かどうかは分からへんな。」

S・A「カルテルがワレラを雇っている情報は？」

SION「あるで。カルテルの規模に依るが、大ききや10人おつてもおかしくないな。」

S・A「・・・分かった。疲れてないか？大丈夫なら一気に潰しに行こう。」

SION「オッケー行つたらやないか！」

目指すは目の前に見えるビル群だ。

・・・ワレラに物欲なんてない。

金が欲しいとも、でかい家が欲しいとも、高い車が欲しいとも思わない。

美味しい飯を食おうとも、いい女を抱こうとも、群れようとも思わない。

物欲もなければ性欲もない。

食欲もなければ睡眠欲もない。

凡そ人間らしい欲を欠いた人間がワレラだ。

SION「そら違うわ左宇。」

S・A「あ？声に出てたか？」

SION「いや。あまりに強く考えてるんで漏れてきたんや。」

S・A「・・・で、違うつてどういう意味だ。」

SION「お前が一体どういうワレラと関わってきたか知らんけどな、そういう考え方のワレラなんてそうそうおらへんで。確かに三大欲求は削られる。欺体やからな。けどな、一般人が持たへん能力、呪文然り特性然り自由に弄れる体然りを持つとるんやで？それを有効活用し、ただの人ん時に出来へんかった事をやるというのが当たり前や。お前みたいな考えの奴は言ったらなんやけど、詰まらん奴ちゃ。」

S・A「そうかもしれないな。」

SION「なんやえらい無気力な奴ちゃんや。これからドンパチやるんやで？」

S・A「分かっているさ。」

無欲だけは受け継いじまったみたいだ俺。

密偵 GREAT OPERATION

ガシフェロ・ボンバ・カルテル。

この世界のメキシコで最も力を持つ麻薬カルテル。
聳え立つ30階建ての高層ビルの屋上に、このカルテルを仕切るガシフェロ・ボンバ三世がいる。

S・A「三世とか付く人って本当にいるんだな。」

SION「驚くところはそこかい。」

見た目は普通のビルで会社だ。

受付には受付嬢がいるし、スーツ姿の男達が世話もなく動き回っている。

S・A「・・・本当に此処が麻薬カルテルなのか？」

SION「ああ。さてどうするよ。正か負になって偵察するか、それとも零のまま堂々と入るか。何れにしてもいきなりドカンは避けたい。」

見た感じ一般人が結構いる。

ビルごと爆破すればシオンも『MURDER』を背負ってしまう。

S・A「取りあえず偵察だ。俺達の情報が既に回っている可能性が高い。入社拒否で済めばいいがいきなり撃たれる可能性もなくはないからな。」

SION「オッケー。じゃあ二手に分かれよう。俺は『火となり灰となれ』を仕掛けてくる。お前はワレラらしき人間を探してくれ。」

S・A「了解だ。何かあれば心に訴えてくれ。」

SION「オーライ。上手くいくよう幸運を祈ろう。俺達自身にな。 “魂の権限を私に”。」

シオンはBUITe化し、裏口へと回っていった。

俺は側面の通風孔から行くかな。

混淆の零

これ程までに欺体を便利だと思ったことはない。

通風孔は子供一人が通れるかどうかという大きさだった。

身長110cmの細身に設定し中に入り込む。

S・A「ち。蜘蛛の巣が鬱陶しいな。」

匍匐前進のまま前へ前へと進む。

所々下が覗けるのでちらちら見ているが、これと言って変わったところはない。

S・A「お、急に開けたな。」

壁の内側に存在する少し広い空間。

そこから真上に行く道と、左と右それぞれに行ける道がある。

・・・上だな。

立ち上がってみると。

S・A「・・・と、届かない。」

ジャンプするとこのアルミ的な道が外れそうだ。

気持ち悪いが、仕方ないか。

身長500cm、体重そのまま。

体を伸ばし上の道に手を掛ける。

S・A「よ・・・更に汚いな。」

所々黒ずみ、蜘蛛の巣もたくさんだ。

再び体を小さくし匍匐で進む。

2階でも1階同様人が世話しなく動いている。

これと言って変わったところはない・・・いや、なんだこの違和感
は。

何かおかしい気がする。

S・A「・・・まあいいか。」

ずかずか進み、再び広い空間に出る。

また体を伸ばし上に行き体を小さくする。

それをあと7回繰り返し10階に出た。

3階から10階までは所謂事務スペース的な階だった。カリカリと文字を書く音、カタカタとキーボードを叩く音、ペラペラと書類をめくる音。

おかしな所は特にない・・・はずなんだが・・・。
やはり何か違和感を感じる。

普通にある風景だがそれが実はおかしい。

寧ろ商社マンはそうじゃなきゃいかんとかいう先入観がある？

・・・ダメだ意味が分からない。

S・A『あーテスト。そっちの首尾はどうだシオン。』

SION『お、ラッキーだな。いきなり捕まるとは思わなかったわ。順調やで。そっちはどうだ？』

S・A『今10階の通風路にいる。ワレラがいるかどうかはまだ未確認だ。』

SION『そうか。ま、気をつけてくれ。』

S・A『お前もな。』

あまり長くテレパシー的な会話をしていると他のワレラに漏れる可能性があるからな。

用件は短く簡潔に。

うーん・・・10階はもういいかな。

広い空間に戻り上に行く。

S・A『ごほつ。げほ？』

いきなり粉っぽくなった。

顆粒が見えるくらいだからよっぽどだぞこれは。

しかも通風路にいるからよけいだ。

S・A『・・・ゴーグルが欲しい。』

匍匐で進むこと3分、下に驚きの光景が広がっていた。

S・A『ビルの中に工場かよ。しかも11階に。』

麻薬製造中らしい。

防塵マスクにゴーグルを着けた作業員が働いている。

いいなあのごーぐ・・・あああああ！

分かったぞ違和感の正体！

眼鏡だ。

1階から10階までの眼鏡率が異常だったんだ。

8割くらいの人は掛けてたんじゃないだろうか。

それが一体何故かは分からん。

粉に目をやられて悪くしたか。

はたまた別の理由か。

いや待て待て待てよ。

シンプルに考えてみよう。

眼鏡を掛けているのが一般人、掛けていないのがワレラ！

有りがちだろこういうのは！

基本的に気づいちやいかんことではあるな。

伏線を気づいた瞬間見破ったら伏線じゃないし。

S・A「だが、その可能性は大だな。しかしそうなってくるとワレラの数はかなり多いぞ。」

SION「左宇！左宇！応答しろ左宇！」

S・A「うるさいな聞こえてる。」

SION「スマンな見つかつてもうたわ。俺は離脱する。」

S・A「了解。」

SION「こうやって話してるからお前の位置もばれてるかも分かん。お前も離脱しい。」

S・A「あいよ。と、ちなみにお前を見つけた奴は眼鏡掛けてたか？」

SION「ん？ん・・・ああ掛けてた気がする。それがどうかすんのか？」

S・A「いや。後は合流してからだ。」

・・・眼鏡が一般人説はないってことか。

俺も出るかな

ガキヨ。

・・・嫌な音だ。

俺の真下から聞こえたこの音は明らかにやばい。
外れるか・・・？

・・・。。。

S・A「・・・よし。もど」

ガキョン！

S・A「どわー！」

遅れてきた反抗期かよこの野郎！

粉まみれの床に華麗に着地する。

「ニヤー！ギャー！ワー！」

あちこちから響めきが聞こえる。

取りあえずワレラが居なきやばれることも

「いたぞあそこだ！」

S・A「ち、いたのか。“ベルンズ・ニー・グリング”。」

発見者を速やかに殺せば・・・！

「わー！やみてくれ！」

S・A「・・・。」

うずくまっちゃった。

S・A「ん？・・・おいおい一体どうしたことだよこれは！」

背中に『麻薬製造関与』数千回。

ワレラなら背中に罪を負っているとしても『MURDER』だけの
はずだ。

S・A「お前は一体なんだ・・・。一般人だろ？」

「・・・。」

だんまりか。

まあいい取りあえず脱出だ。

窓に突っ込もうとして、踏み止まった。

11階の窓なんて突進じゃ破れないよな。

「ウェイこら待てゴラ！」

後ろから大量のマッチョが押し寄せてくる。

眼鏡7人眼鏡レス4人か。

一般人7人とワレラ4人だろうか。

さっきの男は眼鏡掛けて・・・しまった覚えてねえ。

S・A「まいつか。“スレイ・ライ・サントエク”。」
窓に光線を撃ち込み穴を空ける。

S・A「じゃあなマツチヨ諸君。また会おう。」

傘がありやメリーなポピンスだったのに。

至極残念だ。

眼鏡を掛けていようが目はある

SION「眼鏡か。」

S・A「眼鏡だ。」

シオンと外で落ち合い適当な店に入った。

目の前にはテキーラ各種とビール。

SION「そう言われると確かに眼鏡は多かったな。」

S・A「何故だと思う？」

SION「単純に考えると、その工場から出る粉に目をやられたか。もしくは何かを区別しているか。ってところだろうな。」

S・A「その何かが、一般人とワレラのことだとしたら？」

SION「成る程それだ！」

S・A「眼鏡掛ける奴が多かったから眼鏡が一般人、眼鏡レスがワレラだと思ったんだが・・・。」

SION「ん？あ、そうか、だとすると俺が眼鏡に見つかったんはおかしいな。」

記憶を掘り下げて思い出したが、俺を見つけた奴はゴーグルを着けていた。

まさかワレラに麻薬製造をやらせる訳ないし、そもそも『麻薬製造』の罪を被らない。

詰まるところ奴は確実に一般人ってことだ。

S・A「まあいいや、一旦眼鏡のことはほかところ。『火となり灰となれ』はどれくらい仕掛けたんだ？」

SION「大しては仕掛けてないで。必要最低限、あのビルが倒壊する分だけだ。爆破自体は小規模だが、下にドンドコ崩れてくるはずだから危ないな。」

S・A「じゃあ中の咎人を全部殺って、一般人が逃げてからだな爆破は。」

SION「ワレラはどうする？」

S・A「邪魔なら倒す。そうでなきゃスルーで構わないだろ。」

ワレラを倒す方が時間が掛かるから極力戦闘は避けたい。

SION「よっしゃそれでええわ。もうばれちまっとなるから正面切って行くで。」

S・A「上等だ。」

あれこれ考えるのはやめためんどくさい。

正面切ってぶっ壊す。

シンプルこそ最上級の作戦だ。

Welcome My dear dolls .

翌日の正午、ガシフェロ・ボンバカルテルビル自動ドア前には二人の見張りが立っていた。

どちらもライフルを所持し、サングラスを掛けた厳ついオッサンだ。・・・襲撃なら夜が一番だが、あまり遅いと一般人は元より咎人も帰ってしまうからな。

決行は昼にした。

昨日見た限りだと事務スペースには咎人らしい咎人はいなかった。

S・A「やるなら工場の奴らからだ。麻薬製造は生活のため仕方なくやっているかもしれないが、そんなこと知ったこっちゃない。」

罪だと分かりながらやっているなら許す謂れはない。

SION「せやな。ほなそろそろ行くかな。準備は？」

S・A「良くなきや来てないさ。」

SION「オーケーその意気や。じゃあ行くで。」

地面に転がる石ころをシオンが掴む。

SION「『火となり灰となれ』。自動ドアにぶつかった途端爆発する。俺が投げたら3秒だけ待って突っ込むで。」

S・A「了解した。」

SION「よし。上手くいくよう幸運を祈ろう、俺達自身に。よ！」

小石が3個、放物線は描かず自動ドアへと直進する。

2・・・3！

物陰から走り出す。

俺達に気づいた二人のオッサンは何かを喚きつつ銃を唸らせようとした。

が、残念ながら響いたのは激しい爆発音だけだった。

石ころが自動ドアにぶつかり弾けたのだ。

厳ついオッサンだった何かを飛び越え、更に煙を抜けるとビル内部中は想像通り阿鼻叫喚・・・あれ？

SION「あちゃーしてやられたな。勤勉ではない思ってたがまさか誰もいないとは。」

S・A「ああ従業員はいないな。」
スモークガラスで中は見えなかった。

一般人がいるかと思えば待っていたのはワレラ27人だった。
みんなグロアデイを持っている。

S・A「没個性も極まったな嘆かわしい。」

SION「ほんまやで。」

一般人がいらないならさっさと爆破でいいかな・・・。

S・A「聞きたいんだが、一般人はこのビルに残ってるか？」
敵「工場は稼働している！」

SION「じゃあダメやな。爆破はラスト、華々しく散らしてやる
うや。」

S・A「だな。左奥の階段から行くか正面の階段に行くか。どっち
がいいよ？」

SION「俺はどっちでもいい。好きな方を譲ったる。」

S・A「自己主張は大事だぜ？まあいい俺は左奥に行かせてもらう。」

正面切るならシオンの爆破が有利だろう。

SION「オーライ。ほな殺るで。先ずは一人頭13人や。」

S・A「一人余計に倒した方が勝ちな！」

“ベルンズ・ニー・グリング”。

俺は左に、シオンは右に。

敵も迫ってきた所で、力試した。

S・A「“千刃の谷-グラム”！」

試しの刃がオッサン4人に突き刺さる。

大したことはないな・・・。

後続の9人は弾きやがった。

S・A「っと！マジかよ。」

9人の持つグロアデイは全て金を纏っている。

つまり16と19について……。

敵「あはははどうした？ 勢いがなくなったな。」

敵2「怖じけづいたんだろ。」

敵
3
9
「あははははははは！」

S・A「馬鹿野郎が。ますます殺す気になった。」

特性「形状無視」。

グラムの形状を変化。

ツィハンドソード、所謂大剣にする。

・ ・ ・ 折られる覚悟でいかなきゃならんな。

敵「成る程大剣にしたか。セニョール、ビビるなビビるな。」

敵2「あははは無理な話だぜガルバ」。格下だからビビるに決まっ

てんじやん。あつはははは。』

S・A「ふー。詰まんねえ井戸端してんなら通してくれねえかな？」

敵3「強がりだな。」

敵4「もういいや。さっさと殺って一杯やろうぜ。」

・・・ある奴のグロアディが2本に、ある奴のグロアディは透明に。
炎を纏う物、氷を纏う物、電気を纏う物。

S・A「『双頭』、『幻影化』、『炎纏』、『氷纏』、『雷纏』か。

特性のオンパレードだな感激した。」

ここまで来ると『離反』を使っている奴がいてもおかしくないな。

敵「余裕かませるのももう終わりだぜザコ。」

その声を切っ掛けとし、9人の殺意の刃が向かってくる。

纏系のグロアディはまともに受けちゃいけない。

雷グロアディを右にサイドステップで躲す。

そのまま雷野郎に斬りつけようとして、今度はバックステップで炎グロアディを躲す。

そのまま上半身を前に180°曲げ氷グロアディを避ける。

相手が2mの身長で来たのはラッキーだ。

欺体の真面目發揮してやる。

脚の筋肉を異常なまでに発達させ、上半身を左に捻る。

体を右に回転させつつ、強化した鹿のような脚で地を蹴る。

手にしたツーハンドグラムが狙うのはおよそ90cm上の太い腕だ。
敵4「ギヤアッ!?ッアこの野郎!」

ブンブンと回転しつつ綺麗な放物線を描き飛んでいく右腕。

S・A「使い手がショボいと使われる方は可哀相だな!」

グラムに掛かっている『重さの無視』を一旦解除。

それによりグラムは見た目通りの重さ、約30kgを取り戻した。
宙で体に更なる捻りを生じさせ、30kgの剣で男を縦に真つ二つ、
それこそギロチンでも落とされたのように切り分けてやった。

これで5人。

雷野郎が襲ってきてからここまで約10秒の短い攻防だったが、さすがに緊張した。

S・A「ふー……。ん?どうしたよさっきまでの勢いは?ビビったか糞野郎共?」

敵「はははは!ガシフェロのビルに来るくらいだからそれなりに腕は立つと思っていたが、予想は裏切られなかったよ。」

残り8人か……。

今話している奴が恐らく一番強い。

こういう時敵と話す奴は強いかわりか、両極端だが、さっきの小さな戦闘を、まるで隙を見せず、瞬き一つしないで俺を観察していた。
ドライアイにならないか心配だ。

敵「安心しろ俺は一番最後だ。まずは7人の無頼を殺してみろ。」

S・A「そうかよ。ならさっさと倒してやるよ!」

Create剣3本。

左手に出現させた剣を炎野郎に投げつける。

続けてCreate剣3本。

前に突っ込みつつまた炎野郎に投げる。

最初の3本は弾かれたが、次手の内一本を弾き損ね右足に刺さった。
敵3「ぬ……!」

あまり動揺してないようだが関係ない。

左斜め下からグラムを一気に振り上げ切り裂こうとした。

S・A「・・・！一筋縄じゃ、いかないか！」

敵3「当たり前だ。」

敵3は俺が投げた剣を右足から引き抜きそれでグラムを止めやがった。

左手のグロアデイが迫ってくる。

敵3「一死かはっ・・・！がほ・・・。」

S・A「残念。」

“スレイ・ライ・サントエク”を腹にぶち込み敵3から離れ

S・A「うわっ！？」

ようとして足が動かないことに気づいた。

しまった凍らされた・・・！

敵2「油断しすぎだぞベルシル。」

敵3「げほ・・・ぷっ！スマン。」

S・A「っておいおい・・・土手っ腹に穴が空いてんのに生きてる？」

タフだな・・・。

敵3「・・・次こそ一死」

振り上げたグロアデイが吹っ飛び耳を掠め壁に刺さった。

敵2「なんだ！？」

敵3の上半身が爆発し、それによりグロアデイは吹っ飛んだのだ。

S・A「助けるならもう少しちゃんと、ぺっ！助けてくれ。体中に血が掛かった・・・。」

SION「あはははスマンな。」

敵3の背後から放たれた3本の剣。

刺さった瞬間爆発し、敵3の上半身は粉みじんになったってわけだ。

敵2「ち・・・馬鹿めが。」

S・A「はん。酷い奴だな。仲間が一人死んだってのに。」

敵2「仲間？何を言っている。俺達はただ同じ雇い主に雇われているだけだ。仲間などではない。」

SION「寂しい奴ちゃん。ま、なんでもええけど。」
残り7人。

S・A「数はお前の勝ちだなシオン。」

SION「余裕やで。俺の特性は個人にも集団にも有効だからな。
ただ、殺り方に関して言えばお前のが綺麗だな。」

ぶちまけてるけどな色々。

S・A「スマンが、あと3人頼む。そのかわりあとの4人は完全に
殺してやるからよ。」

この後使うかもしれん。

SION「てことは・・・あれ使うのか？」

S・A「ああ。じゃ、終わったら先に行つててくれ。」

SION「了解。」

S・A「すー・・・ふー。『エラヒストス タナトス最奥の地下水路』。対象、敵、敵2敵
5、敵6。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1364z/>

JETBLACK-Footsteps.Coming.-

2011年12月16日21時51分発行